

| 単位数 | 教科担当者 | 使用教科書・補助教材・その他 |
|-----------------------------|------------------------------|---|
| 2 | 木下俊行 廣田憲一 一柳直貴 鎌田邦広 | 数学 B (数研出版) |
| ○必修 学校必修 必修選択 自由選択 | | 4STEP数学Ⅱ+B (数研出版) チャート式基礎からの数学Ⅱ+B (数研出版) |

◆学習の目標

- ・数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高める。
- ・1年次に引き続き、効率的で正確な計算力のアップに努める。
- ・問題集・参考書等を用いて応用力の強化に努める。苦手とするベクトルや数列の入試問題にも対応できる力を養う。問題集・参考書等を用いて応用力の強化に努める。

◆主な学習内容・方法

- (1) 1 数列 2 平面上のベクトル 3 空間のベクトル
(2) 数学的な考え方やものの見方を重視し、それを表現する力と処理する力を養う。

◆到達目標と評価の観点

[標準] 予習・復習の学習習慣を確立させる。
課題を完全に提出させる。

[応用] 図形等を活用し、総合的に問題を解く力を身に付けさせる。

[評価の観点] 答えだけではなく、論理的に記述ができる力を身に付けているかどうか判定する。

◆評価の方法

定期考査・小テスト等の成績、課題の提出状況、および日常の授業に対する意欲・関心等を総合的に評価する。

◆年間予定授業時間

| | | | | |
|------|------|------------|------------|------------|
| 予定時数 | 70時間 | 1学期 (26時間) | 2学期 (28時間) | 3学期 (16時間) |
|------|------|------------|------------|------------|

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・教科書で予習をする。 ・4STEP A問題は授業の復習として日常的に解いておく。計算力はそこでつける。 ・応用力は4STEP B問題・チャートでつける。理系を目指す者はチャート全問制覇。 ・平素の学習でA問題を解いておかないと考査前に全問やりきれない。計画性を持って進めること。 |
|---|

◆授業計画

| 学期 | 月 | 単元・教材等 | 単元ごとの時間数 | 学習の内容 | 注意すべきこと |
|-------------|-------------|-----------------------------------|----------------------|--|--|
| 1 学 期 | 4 | 第3章 数列 第1節 数列とその和 | 2 6 | 1 数列 2 等差数列とその和 3 等比数列とその和 4 Σ 5 階差数列 6 いろいろな数列の和 | 多くの数列の根源となる等差数列・等比数列を正しく理解する。 指数についても正確な計算を目指す。 |
| | 5 | | | | |
| | 6 | | | | |
| | 7 | | | | |
| 2 学 期 | 8 | 第2節 数学的帰納法 | 8 | 7 漸化式と数列 8 数学的帰納法 | 隣接3項間の漸化式も学習する。 2つの数列の漸化式も学習する。 |
| | 9 | | | | |
| | 10 | 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 | 8 | 1 平面上のベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル | ベクトルの基本的な概念について理解し事象の考察に活用できるようにする。 |
| | 11 | | | | |
| 12 | 第2章 空間のベクトル | | 1 空間の座標 2 空間のベクトル | 空間の直線の方程式, 平面の方程式も学習する。 | |
| 3 学 期 | 1 | 第2章 空間のベクトル | 1 6 | 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル 6 ベクトルと図形 7 座標空間における図形 数列・ベクトル総合演習 | 図形と方程式で扱った既習事項と関連付けて学習する。 |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |